

【参考資料1】より抜粋

**処理技術に関する状況**

文献情報から得られる 1,1-ジクロロエチレンに適用可能な排水処理技術とその概要は以下のとおりである。特定事業場においては、1,1-ジクロロエチレンのみならず、有機塩素系物質に一般的に適用可能な処理技術が導入されているものと推察される。

表 32. 適用可能な排水処理技術とその概要

排水処理技術	原理	適用条件
揮散法	揮発性が高いため、大量の空気曝気して大気中に揮散させる。	曝気した空気をそのまま大気へ放出すると大気汚染が発生するため、活性炭吸着等の方法で排気ガスを処理することが必要。
活性炭吸着法	有機塩素系化合物は活性炭に吸着されやすいため、よって排水中の成分を活性炭に吸着させて排水から除去する。	吸着した後の活性炭を処理することが必要。
酸化分解法	燃焼等によって二酸化炭素等に分解する。	大気中に揮散させた後、高濃度で大量の排気ガスが存在することが必要。
生物分解	嫌気性と好気性の条件を組み合わせることにより、微生物によって分解する。	有機塩素系の物質は一般に生分解しにくいいため、適切な条件を設定することが必要。

※・「新・公害防止の技術と法規 2008 水質編Ⅱ」（公害防止の技術と法規 編集委員会）

・「水質基準の見直しにおける検討概要（平成 15 年 4 月 厚生科学審議会・生活環境水道部会・水質管理専門委員会）」